

第1回丹波市自治協議会のあり方懇話会（摘録）

開催日時	平成30年6月28日（木）午後2時00分開会～午後4時30分閉会
開催場所	ハートフルかすが大会議室
出席者	【委員】 久隆浩委員、大野亮祐委員、西垣伸彌委員、清水明委員、足立徳行委員、藤本修作委員、田中延重委員、瀧上敏彦委員、畑田久祐委員、澤村安由里委員、田邊和彦委員、田村庄一委員、荒木伸雄委員、田中義人委員、吉積明美委員 【丹波市】 市長、副市長 【事務局】 まちづくり部長、市民活動課、各支所
欠席者	【委員】 吉見温美委員、増南文子委員、足立純子委員
傍聴者	8名
次 第	1. 開 会 2. 委嘱書の交付 3. 市長あいさつ 4. 委員自己紹介 5. 座長及び職務代理の選出（設置要綱第5条） 6. 座長あいさつ 7. 懇話会趣旨説明 8. 協 議 （1）運営要綱、傍聴要領の決定について （2）会議公開・非公開の決定について （3）丹波市自治協議会のあり方懇話会の進め方について （4）丹波市自治協議会のあり方懇話会 考え方の整理のための講義 （5）委員意見交換 9. その他 10. 第2回懇話会開催日程 11. 閉 会
資 料	【資料1】丹波市自治協議会のあり方懇話会委員名簿 【資料2】丹波市自治協議会のあり方懇話会設置要綱 【資料3】丹波市自治協議会のあり方懇話会開催趣旨について 【資料4】丹波市自治協議会のあり方懇話会に関する運営要綱（案） 【資料5】丹波市自治協議会のあり方懇話会に関する傍聴要領（案） 【資料6】丹波市自治協議会のあり方懇話会の進め方について 【資料7】丹波市自治協議会のあり方懇話会スケジュール（案） 【資料8】講義資料 ◆参考資料 ① 丹波市参画と協働の指針 ② 丹波市自治基本条例 概要版・解説書 ③ 丹波市情報公開条例 ④ 丹波市25地域の姿 ⑤ 宝塚市住民自治組織のあり方に関する報告書 ⑥ 宝塚市のまちづくり協議会ガイドライン

会議摘録	
発言者	発言の要旨
事務局	1. 開会 ○開会あいさつ 2. 委嘱書の交付 ○市長より代表委員へ委嘱書交付 3. 市長あいさつ はじめに丹波市の今の状況をお伝えさせていただきたいと思う。 春日インターの隣接にある「道の駅丹波おばあちゃんの里」の近くに、ホテルを誘致できるような話になってきた。議会ではこの前に説明させて頂き、地元にはこれから説明をさせて頂くこととなっている。 先週6月23日に栗柄峠が開通し、篠山との間で時間距離も4分短縮になる。実際に走られた方は、「4分どころではなく、対向車が来たら、と思う所を楽に通れるようになりで気分が楽になった」と言っていた。それは篠山との間で親近感が出るという事である。 また、2020年のNHK大河ドラマでは、明智光秀がテーマになる事で、黒井城周辺が大変にぎわってくると思う。 現在の丹波市総合計画は、柏原・氷上インター辺りが広域拠点として位置付けられ、春日インター辺りが副拠点という扱いになっている。議会で春日インター辺りも合わせて3つを広域拠点にすると提案頂き、同意すると申し上げたところである。 今年度は未来都市創造審議会を立ち上げ、丹波市の20年先はどんな姿であるべきか、という議論を4月以降続けている。単にここを行政ゾーンにする、医療福祉ゾーンにする、子育てはどうする、これらも大切だろう。しかし、私はそれ以上に、新しい自治協議会のあり方、これが重要な役割を持つてくると思う。私は一昨年の4月に神戸からUターンし、その年の12月5日に市長に就任させて頂いた。恥かしながら、私は自治会と自治協議会が併存している事をよく知らなかった。 私の祖父は、昭和30年に新井村と柏原町が合併する時に合併協議会の役をしていた。自治協議会の発足を聞いたとき、当時の村長が復活すると私は思い、感慨を覚えた。私は以前、県の職員をしており、県の存在は国と市町村の関係に比べて、中二階と言われる。市町をいかに輝かせるかその思いがあり、中二階がいかに機能していくかが重要だという気持ちがある。そういう意味で自治協議会の中二階の様に思う。 日本経済新聞には、将来的には必ずコンパクトシティにしないと、日本の国は成り立たない、効率が悪い等掲載してある。総務省財政局長は、財政面から水道・下水の区域は広めるなどと言う。 そんな中でも、効率的に中心部だけに住めとは言えない。生まれた所に住みたいとの要望にも応える必要がある。 日本経済新聞で富山市の多極型コンパクトシティという事例が紹介されていた。丹波市も、コンパクトシティを視野に置きながら、それぞれの所で住み続けて、公共交通を充実させる、それが大切だと思う。 先日の久教授の講演では、事業棚卸しの必要性に触れられていた。これに関して、私の身近にある例として、「伊勢講」という江戸時代から続く伝統行事を思い浮かべた。伊勢講とはグループで集まり代表に伊勢参

事務局	りに行ってもらおうというもの。当番は必ず歩いてグループに連絡に行く決まりで、自分が番の時に変えられないと母親は決まりを守り続けてきた。しかし、現在は便利な通信機器がある。そのような事から棚卸しをやらないと逆に守っていけないこともあると思う。 先日の久教授の講演で、自治協議会と地域団体の関係は、統合型・補完型・支援型3タイプの分類がありました。私は自治協議会のあり方として、中二階的に多極型コンパクトシティの核になって頂ければと思う。 勝手な私見として申し上げたが、あり方懇話会で自由活発な意見を出して頂いて、その成果を出して頂くことを心から祈念する。
事務局	4. 委員自己紹介 ○名簿順に自己紹介
座長	5. 座長及び職務代理の選出 座長 久 隆浩委員 職務代理 足立德行委員 6. 座長あいさつ 先程、自己紹介の際にも申し上げたが、実際にいくつかの地域で協議会の立ち上げ・運営の手伝いをしてきており、今課題がどこにあるのか自分なりに整理を始めているところである。 参考資料として、宝塚市の資料が2つある。 宝塚は各小学校単位でまちづくり協議会を作って20年以上になる。しかしながら、自治会とまちづくり協議会の関係を上手く整理できている地域は少なく、去年一昨年と2年かけて、地域で動く方と意見交換の中でまちづくり協議会のまちづくりガイドラインを作成した。このガイドラインは、協議会が上手く運営できるかの手掛かり、またチェックリストにもなっているので、改めて地域の活動をチェックリストに基づいてチェックして頂いて、今どこの部分が今課題として抱えているのかを見て頂ければと思う。 宝塚の事例を含めて情報を提供させて頂くので、逆に皆様からは丹波の状況を教えて頂きながら、地域活動についての議論が進む事を願う。
職務代理	職務代理あいさつ 私は以前公務員をしており、退職前の12年間は神戸へ単身赴任していた。定年後に帰ってくると自治会長が回ってきた。その自治会長の任期が終わると、先輩から神楽の事を一生懸命やれと頼まれて、神楽にあった財産管理をする財団法人神楽会を基軸にした、地域づくりを推進できる法人立ち上げに携わることになった。 4年間業務執行委員として26年から理事長になって今年で5年になる。県なり市の補助金を活用しないことには、なかなか運営は難しいと思った。補助金が活用しやすい方法、あるいは人件費を補助対象にできるような補助金、そういうものがないかと考えながら今日に至る。この懇話会では、私なりに体験、経験したことを意見しようと思う。
事務局	7. 懇話会趣旨説明 ○資料3に基づき説明。

副市長	事務局の説明に補足する。 今回の自治協議会の懇話会の議論は、2～3年前にすべきであったと思う。平成28年度から10年間で800万円の新たな交付金がある。その検討の際に、この議論をすべきであったと思う。 先程も説明があったが、平成24年4月から自治基本条例で正式に自治協議会という制度を条例で定めている。実際には自治協議会はそれより前にあった。ただ、この条例で定めた時には、既に自治会は300程あり、地縁を軸とした団体がそれぞれ地域にあった。それにも関わらず、別に自治協議会というものを制度化した。それも、エリアは集落よりもっと大きい小学校区単位として。自治会は世帯単位だが、協議会は個人単位、すべての住民が参加するという形であり、その小学校区の中にある、老人クラブ、子ども会といういろんな団体も含めて構成団体として入った。 そもそもなぜ、自治基本条例をつくってこの制度を別に作ったのか、どんな目的で作ったのか、自治協議会はどんな性格の団体なのかというあたりをもう一度きちんと確認をしておく必要があると思う。 そういう目的、性格としてつくった自治協議会が、実際のところどうなのか。現状とのギャップがあるのか。10年、20年後の自治協議会は当初と同じでよいのか。状況が変わり目的、性格を変える必要があるのか。そこを押さえる必要がある。 10年、20年後の自治協議会の方向性が出れば、それに向けて今後どんな取り組みをするのか、また行政はどんな支援が相応しいのか。それが、ここの懇話会の論点になると思う。 20年後の都市のあり方を議論する中の重要な柱として、都市の機能は中心部に集めるけれども、住む場所は生まれ育った場所にそれぞれ住んでいただくというものがある。 行政が縮小すれば、地域の課題を誰が解決するのかという問題が出てくるだろう。行政機能が縮小すると国から県、県から市、市から自治協という様に、権限移譲するかもしれない。そういうことも睨んで、20年後の地域の課題を解決する上での自治協議会の役割といったことも考えながら、ご議論頂きたい。
座長	最後に意見を聞く場を設けており、事務局や副市長の話をうけて、懇話会でどのような議論をすればよいのかの意見は後程お聞かせ頂ければと思う。 私なりに解釈をすると、原点から考え、あるべき姿を経験に基づきながら再度チェックをし、運営の方向性を見つける。そして、それを回す仕組みや仕掛けを共に考えていきたいと思う。
事務局	8. 協議 (1) 運営要綱、傍聴要綱の決定について ○資料4に基づき説明、提案通り決定
事務局	(2) 会議公開・非公開の決定について ○資料5に基づき説明
座長	本日の会議にあたっては、個人情報特定されるものではないため、

事務局	公開とする。今後の会議につきましては、その都度協議をさせて頂いて決定する。 (3) 丹波市自治協議会のあり方懇話会の進め方について ○資料6に基づき説明
委員	(質疑) 自治会長会の役員、理事に自治協議会の代表がおられる。そのあたりの認識について、行政的にはどう考えているのか？ あくまで、自治会長会は自治会長会。自治協議会の代表は自治協議会の代表として、横に分けて考えているのか。
事務局	行政から自治組織への窓口は、現状として、自治協議会と自治会の2つになっている。しかし、自治協議会、自治会長会と分けることは本来でないと思う。しかし、どちらかの組織にお伝えするだけでは伝わらないという実情があるので、今回のあり方懇話会の内容については、両方に届くようにそれぞれに伝えるよう調整をさせて頂きたいと思う。共に市に協力いただく重要な組織であるが、協働の関係である地域組織の窓口は、1つであるのが本来かと思う。
委員	各地域では自治会長会が存続する所と、存続しないところがある。存続しているところでも割とスムーズにいつているところと上手くいつていないところがある。なぜかという、行政当局に自治会長会と自治協議会の役割分担という頭がないからである。あっち、こっちに頼み、結局、市民に伝わらないということがあろうと思う。そのところ懇話会の中で良い方向にもっていこうと思うが、行政は行政の内部で、自治協議会と自治会長会の住み分けをどうするかというところも合わせて協議をして頂きたいと思う。
座長	これは、次回以降の重要な議論の内容だと思う。宝塚市でもこのような事例がある。 すべての部署ではないが、宝塚市に、地域のパートナーは誰かと確認したところ、自治会と考えている部署、まちづくり協議会と考えている部署と様々であった。 これが地域に混乱を招く原因だと宝塚市も認識をして、整理していかないといけない状況になっている。 これはあり方懇話会の一番重要な話で、自治協議会と地域の団体、行政との関係をどうするのか、両輪で考えていくと意見の方向性が出ると思うので、時間をかけながら検討をさせて頂きたい。
職務代理	(4) 丹波市自治協議会のあり方懇話会 考え方の整理のための講義 あり方懇話会において考え方を整理するために座長に基本講演をお願いする。講義の後、事務局からの説明を含め、講義内容の質疑の時間にしたい。 ≪講義記録 別紙参照≫

座長	(5) 委員意見交換 次回以降地域の活動をより活発にしていく、そのなかでの自治協議会のあり方を一緒に意見交換をさせて頂きたいと思う。何かご意見等あればお聞きしたい。
職務代理	久先生、ありがとうございました。 非常にわかりやすく、色々な話題、事例を挙げながら説明頂きました。特に、アリの法則とか集団の法則について、なるほどと思いながら聞かせて頂いた。 今の先生の、お話に対して、質問や応答の為の時間を取らせて頂きたい。
委員	行政からの依頼が多いという話があるが、そのあたりはいかがか。
座長	同感である。 トップダウンの階層組織型で動かざるを得ない状況を作っているのは市の責任もある。 市役所の各部署が、市民の誰をパートナーとして動くのか、安易に協議会や自治会を頼ったのではないか。多様な市民に関わって頂ける機会を作って頂きたい。市民の中にも、仕事の経験や資格を活かせる方が沢山いると思う。 大阪府茨木市の広報で、選挙の立会人募集があった。今までは、茨木市は自治会に依頼していた。まだ自治会への依頼も残っているが、先ずは広報で公募をしている。 このように、市からの呼び掛け方を変える事で、地域の負担が減ると期待している。
委員	地域で、コミュニティスクールというものがある。 子ども達に私たち高齢者や先輩達が、昔の知恵や特技などを教えるという行事である。しかし、教える人を募集しているが、手が上がらない状況である。地域で盛りあがるヒントがあれば教えて頂きたい。
座長	待ちの姿勢だとなかなか声は上がらないだろう。 大阪市東住吉区にある今川小学校区でまちづくり井戸端会議をしている。そこでは最初に一人一人自己紹介や近況報告を回していく時間がある。そこで自治会長が、「最近、蕎麦打ちを始めたが、家族は美味しいと言ってくれない」と話したところ、PTAの役員の方が、「初めて聞いた」「今度の土曜日に子ども達が集まる機会があるから蕎麦打って貰いたい」という話になった。 このような、よもやま話ができる機会があれば輪ができてくると思う。得意なことや、退職をされた方であれば前職の話が出てくるだろう。その機会を掴まえて何かあったらこの人に頼んだらいいというデータをたくさん蓄積する機会を作れば如何だろうか。
委員	講義を聞いて少し勇気が湧いてきた。しかし、自治振興会や協議会、自治会等々、組織上の問題を思うと暗くなる。 私は今年から自治振興会の会長をやっており、趣味のサークルも合わせていろんな団体/グループがあるとわかった。交流を深めていくという意味では、もっと積極的にやろうと思っている。この前ノルディック

座長	ウォーキングを行った。参加者からは是非次もやりたいと聞いている。そういう事は今後もやっていけると感じた。 行政からの依頼が多い事も含め、行政に課題がある。山南町の場合は中学校の統合問題がある。例えば、地域住民の意見を聞く様に行政から依頼があったとすると、私は、地域の代表意見を出すことは非常に難しく、できないと思う。そういった課題に対して、自治協議会や自治会の役員はどのように対応したらよいか悩んでいる。 講演の最後に行事を止める/縮小する勇気を持てるか？といった話をした。 自ら会長であり運営をしていて暗くなると申されたが、自分が暗くなる組織を次の会長に渡せるか？皆暗い気持ちで受け継いで行かなければならない。だから会長の担い手がなくなってくる。 自治会や様々な組織の会長や役員と話をする中で、上手く世代交代をされている所に共通項が見えてきた。それは役員達の一番の仕事が、次の人達が楽になるようにすることだと考えているところである。例えば、行事を減らしたり、しがらみをクリアにしたりする事である。そうする事で組織のあり方が少しずつ変わっていくだろう。 もう1つが、市役所は簡単に地域の合意形成を取るように申される。自治協議会の目的の1つも合意形成の場所だと申される。しかし、合意形成はそう簡単にできない。自治会や協議会で合意形成を図るときに、気を付けて頂きたいことがある。 これは、豊中駅前の市街地整備の為の意見交換の時の事例である。豊中駅前は駐車場が足りない。そこで、駅から近い小学校の地下に駐車場を作りたいと市役所から問題が提起された。そのときに、一番反対に回ったのがPTAである。子ども達が通う小学校の近くに駐車場の出入口を作る事は許せないと反対である。しかし、駅前なので商業者はたくさんいる。商業者はお客の駐車場が欲しいという事で賛成である。そこでPTAの役員は、小学校の地下に駐車場を作る計画に協議会としては賛成なのか反対なのか、と会長に問い合わせた。PTAの役員の本音は、協議会が反対に回って自分達の味方をしてもらいたいと思っていた。 その時の会長の裁きが見事で、協議会は賛成でも反対でもない。協議会とは名前の通りいろんな方が集まって話し合う場である。だから、協議会が賛成だと言うと、反対の人が来なくなる。逆に反対といえは賛成の人が来なくなる。そういう協議会は協議会ではなくなってしまう。だから、皆で話し合ってもらって、その結論をまとめる事が協議会の役割であると返答した。それが正論だと思う。 協議会や自治会の役割は、本音が言える場所を作り、議論をして、合意形成を図る事である。そういう意味では協議会運営や、地域の方々と合意形成を図るというのは、民主主義の恰好である。 しかし、多くの住民は誰かに任せている。自分の意見だけ言って、自分と違う意見を人と自分が調整しない、自分が言いたい事だけ言って、両方の意見を聞いた役員さんが困ってしまうという状況である。 それを本当に自分達で意見を戦わせて、自分達で調整できる雰囲気や協議の場所を作るのが、これからの地域に求められていると思う。そのような場所を地域で作ると、いろんな問題が本当の意味で自治という形でまわしていけると思う。しんどいが、それを乗り越えない限り地域で決めるという事は出来ないと思う。
----	---

委員	3つ問いたい。 1つ目が、スライドにもあった様に女性の方に力を感じた。それは、子どもを育てるという使命を感じているからだと思う。そのような方をどうすれば自治協の活動に結び付けていくことができるだろうか。 2つ目が表題で「みんなで楽しく」と掲げられておられる。一方、自治協議会と自治会長会が上手くいっていないところもあるという話が委員からあった。それは「みんなで楽しく」を阻害する事柄があるということだろう。ただ、私達は自分の地域の自治協の事しかわからない。そういった状況と対応について、資料的な事でお示し頂きたい。 最後に、自治会費を納めて義務で活動する人が殆どだと思う。一方で、10年から20年後に向けて自発的に動く人が必要であると申された。果たしてそういう人が本当に出てこられるのだろうか。これまでのまちづくりの実績から見て、丹波市に自発的に動く人を発見して増やす事が本当にできるだろうか。
座長	まず、2点目について。この懇話会で、皆の課題や状況を出し合って共有をしたいと思う。事務局から情報提供をするよりも、実際にはどういう状況なのか、上手くいっている部分はどこか、課題として抱えている部分がどこか出し合い、私や事務局が整理していけば、方策とか糸口が出てくるのかと思う。 1番目の話と3番目の話は非常によく似ている。 大阪市東成区で月1回井戸端会議をやっており、そこに協議会の事務局局長が毎回参加している。その時に、事務局局長が行事の事前準備の時に指示を出すまで誰も動かないと申された。指示を待って動く習慣付けをしてしまうと、指示待ち人間ばかりとなる。指示がないと動かないと思ってしまうと、また指示を出す。悪循環となっているのだろう。考えて動ける人がいるにも関わらず、そういう機会を作っていない限り、動ける人は見つからない。もし居ても動けない。 私は、どんな地域でも素晴らしい人がたくさんいると思う。雰囲気作りだけの問題だと思う。丹波はどうか？と聞かれれば、丹波にも素晴らしい方がたくさんいると思う。 堺市西区に区民評議会がある。去年一昨年のテーマが「若い方々がどうやったら地域活動に参加できるのか？」である。その中で、子育てママがいる。現役の看護師でありながら、一人で映画会や講演会を企画運営できる方である。その方が、まちづくりの会の中で申したのは、二人子どもがいて上の子どもの時にPTAを引き受けた。しかし、一度PTAをやったら次の子どもの時には、二の足を踏んだと言われる。なぜかという、「会議があるので出てください。」「イベントの手伝いに来てください。」と言われ、自分のペースで活動できないからだと言われた。 自分がやりたい事なら積極的に企画運営をするが、指示命令をされると拒絶反応が起きるということである。若い方は企画力や実行力があるが、上から言われることが苦手である。任せ切れるかどうか、若い方を引き込むことの1つの秘訣かと思う。 先程申された様に、子育て世代のパワーの根源は子どもである。「いこママまるしえ」の佐村さんはこのように言っていた。「お母さんが熊本に帰りたいたいと言うと、子どもが生駒を好きになるわけがない。だからお母さんがこの生駒で生き活きと活動することで、それが子どもに伝わって、子どもが生駒を好きになる」「だから、それを思って活動をしてい

	る。」 摂津市のマミー・クリスタルの新田昌恵さんも同じ事を言っていた。新田さんは、ご主人とお姑さんに摂津市はどんなところかと聞くと「何も無い」と2人共言う。新田さんは子ども達が大きくなったときに、子どもにも同じように「何も無い」でいいの？と思われた。摂津市を子ども達の為に輝くまちにしたいという思いがあって、頑張っていると話されていた。現在新田さんは、「NPO 法人摂津まるごとプロジェクト」というのを立ち上げている。ここのキャッチフレーズがおしゃれで、What's SETTSU?!を That's SETTSU!!に変えると言う。“W”が“T”に変わるだけである。「摂津市は何？」から、「これぞ摂津市！」と言わせたいとの思いで『What's SETTSU?!を That's SETTSU!!に』というキャッチフレーズで NPO の活動をされている。これがまさしく、子どもに未来を残したいという思いである。 そういうパワーは丹波にもあるはずである。どうやってこれを引き出していけるかについても次回以降にも意見交換をさせて頂ければと期待している。
職務代理	他に意見等あるだろうか？
座長	本音トークも踏まえながら、次回以降、地域の活動をより活発にする方法、自治協議会のあり方を一緒に意見交換をして頂ければと思う。 ほかに何かあるか。
委員	資料6の懇話会の進め方には「組織運営」「活動内容」「拠点施設」「人・財源」と4つの中心課題があるが、会議の進め方がどうなるのかお聞きしたい。 テーマ毎に話をするのか、グループに分れるのか、ワークショップ方式なのかいろいろと考えられる。次回どうなるか伺いたい。
座長	12月辺りに中間まとめがあり、ここでは「組織運営」、「活動内容」を重点的に「拠点施設」、「人・財源」をテーマに意見を伺うとなっており、その後が、「組織運営」、「活動内容」、「拠点施設」、「人・財源」をテーマに意見を伺うとなっている。 まずはそれぞれの地域で、組織運営、活動内容のどこに課題があるか把握したい。更に上手くやっているところから、ヒント・手掛かりを頂きたいとの意図がある。 今回はフリーディスカッション的に地域の現状を出し合ってみたいと思う。それで上手く整理がつけば、次々回はもう少しターゲットを絞ってやりたいと思う。もし、次回で課題とか好事例が出尽くしていない場合は、もう一度フリーディスカッションを続けて、次のステップに行きたいと思う。 中間まとめで一定の方向性が出るので、来年度はひとつひとつテーマを絞りながらやっていきたいと思う。 この人数ではやりにくいと思うなら、小グループに分かれてグループワークに切り替えるなど臨機応変にやりたいと思う。 課題ばかりでは解決の方策が見えないので、上手くいっている好事例も是非とも持ってきて欲しい。 団体から来ている方は、「団体と協議会が今どうなっているのか、この

事務局	ようにすれば上手く団体の構成員と協議会が上手く協働ができるのに」という思いを持ってきて欲しいと思う。 9. その他 ○連絡事項無し
事務局	10. 第2回懇話会開催日程 ○平成30年8月7日（火）午後2時00分～ 於：氷上保健センター 2階ホール
座長	丹波市は合併で非常に広くなっており、現場に近い所で意見交換をさせて頂いたら雰囲気もわかると思い、それぞれの地域を回る事を検討している。本日の懇話会は以上で終了とする。 11. 閉会